

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800017		
法人名	株式会社 平安		
事業所名	グループホーム ききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505-2		
自己評価作成日	令和元年8月5日	評価結果市町村受理日	令和元年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190800017-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの人格を尊重し、誰もが人間らしく自分のままでいられる場所作りを職員一同で心掛け、いつかスタッフ自身もここで過ごしたいと思えるようなあたたかな心とサービスで皆さまをお迎えしております。また、最近では、より地域の方々に施設を知っていただくために、参加自由型のイベントを開催したり、施設内に地域の子どもたちを対象としたピアノ教室の開校などより地域に役立てる施設づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元の花である「ききょう」を事業所名としている。併設の小規模多機能ホームと共に地域住民と交流しながら、「自分らしさを、いつも、いつまでも」という思いで、利用者一人ひとりの人格を尊重し、笑顔のたえない毎日を送れるよう支援している。また、地域の子どもたちが利用者と挨拶を交わしたり、交流が出来る機会になればと、空き会議室を子供向けピアノ教室や習字教室等に提供しており、利用者の楽しみに繋がっている。働き方改革を導入して、職員の仕事量が軽減できたことから、更に職員の定着率も良くなり、将来、自分自身が利用したいホーム作りを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念にもある将来自分たちもこの施設を利用したいと思えるようなサービスを提供するため、日々の介護で気づいた事や問題点があればその都度管理者と職員で話し合うことにより利用者様に安心したサービスを提供している。	理念・基本方針の5項目を掲げながら、管理者は職員と共に、将来、自分自身が入居したいと思えるグループホーム作りを目指している。日々、互いに気付いたことを話し合い、より良いサービスにつなげ、優しく、穏やかな支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問等のイベントがある度、外部掲示板に慰問内容を掲示することにより地域の方に参加いただいたり、バーベキュー、流しそうめん等の大々的なイベントの際は地域の回覧板等により周知し老若男女問わず多くの方と交流している。	併設事業所内に「ピアノ教室」の場を提供したり、様々な「音楽療法」を取り入れるなど、若い親子や外部の人との関わりができ、交流の機会が増えている。また、事業所の行事に地域住民の参加が得られるよう、外部掲示板や回覧板で案内している。	これまでも事業所は地域とのより良い関係づくりに努めてきている。さらに、地域における事業所の認知度を高め、住民に必要とされる存在になれるよう、工夫ある取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所へ直接相談に見えた場合はケアマネージャーや管理者等により対応し、少しでも地域の方が安心していただけるような支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域福祉の相談場所になるため、施設での取り組み等をできるだけ発信し、地域の方が近寄りやすい施設づくりをしている。	運営推進会議は「事業懇談会」と称し、連合会長・自治会長・民生委員・行政・家族等の参加を得て、定期に開催している。事業所の活動報告や今後の取り組み、事業所の役割りについて意見交換し、改善点は具体的に引き上げながら話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度、市の介護相談員の方に来所いただき様日頃の生活の様子等見学いただき意見交換等実施している。	行政担当者から、事業懇談会の場で、介護保険の動向や地域高齢者の現状など具体的な説明や報告を受けている。困難事例や現場の声を伝え、行政の指導や助言を利用者サービスにつなげている。市の依頼を受け、地域の福祉避難所となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際身体拘束の勉強会を実施するなど、職員全員の知識の向上に努めている。また、日中は玄関の施錠はせず開放的な空間を築いております。そのため職員はいつも利用者様が安全に過ごせるよう見守り等を強化している。	玄関の施錠を含め、身体拘束の弊害について具体例を挙げ話し合っている。委員会や研修会を定期的に開催し、身体拘束ゼロに取り組んでいる。やむを得ない場合は最小限の対応とし、家族に説明している。音のしないセンサーランプを居室入口に設置し、利用者の自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待に関しても、ミーティングは勿論のこと日頃より常に注意喚起し、虐待の防止に努めている。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員の研修に管理者が参加し、会議において、日常生活自立支援や成年後見制度について職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはケアマネージャー、管理者が立会い施設の概要、料金等を明確に伝え利用前の施設見学も促し、両者が合意の上契約している。また、退所時もケースに応じて相談を受けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの作成時や運営推進会議の際ご家族からの意見等を聞いている。また、利用者様においては普段の生活の流れでそれとなく意見を聴取し、利用者様にストレスを与えないよう情報収集している。	家族の意見や要望は、訪問時や事業懇談会で聞いている。利用者の家庭での暮らし方を聞き、同じ環境を保てるよう工夫している。ピアノ教室や演奏会等の防音対策についての質問があり、ホームが防音対応施設であることを説明し、理解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの際職員が問題点などをディスカッションする中で問題解決できるようアドバイスをし、より良いケアができるようメンタルケアに努めている。	職員からの意見を聞く機会を設け、その場で解決できることは迅速に対応している。働き方改革に取り組み、職員の希望や問題点を把握し、具体的改善につなげている。月例のミーティングや職員会議には、代表も参加し、意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を作るため、職員目線のシフトの作成、給料のベースアップ、福利厚生充実、施設の設備改修をすることにより、職員自身のやる気向上からの働きやすい職場環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量ならびに知識を把握するためホールでの実践を見学したり、教育係からの意見をこまめにヒアリングするようにしている。また、講習会等にも積極的に参加するよう、回覧にて促している。受講者には受講料の補助をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業者連絡会やグループホーム協会主催の講習会等には積極的に参加し、同業者との交流を深めている。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では本人との会話を大切にしている。顔を見ながら話すことにより、本人の不安を取り除き安心した生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートを作成し、なるべく多く本人の情報を収集し、利用者様に合ったサービスの提供プランを提案することで信頼を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がその時点で何が一番必要なのを見極め安心して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するのが職員の仕事という事ではなく。共に暮らしを築くという考えで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日頃の様子等をご家族が来所されたときは勿論のこと2か月ごとにお便りにして情報提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所より年月が経つにつれ徐々に関係は途切れてしまうが、定期的に慰問来所される方との馴染みを大切にしている。	併設の小規模多機能サービス利用者と共に、行事に参加しながら交流し、馴染みの関係を継続している。また、ボランティアの受け入れや買い物支援等でも、利用者の馴染みの人や場の関係継続を支え、個々の希望には家族に協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの尊重されることを大切に受け入れ、利用者同士が譲り合い支えあえるような環境作りに努めることにより利用様が孤立しないようコミュニケーションをとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した場合も必要に応じて本人やご家族からの相談に応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活していく中で利用者様お一人お一人と丁寧にコミュニケーションを取ることを心掛けている。また、ミーティングの際利用者様全員のモニタリングを行い職員全員が利用者様の状況を把握することを徹底している。	家族から、利用者の家庭での暮らし方を聞き、参考にし、個別ケアでも時間をかけて対応しながら、コミュニケーションを図っている。知り得た情報を職員間で共有し、個々の課題を検討しながら、思いや意向を把握し、利用者が安心して過ごせるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方との話の中でこれまでのサービスのあり方を考え直したり、職員全員が意に沿う事ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者様の顔色や表情等を気にかけてお一人お一人の状態を職員全員で情報共有し、サービスにあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で意見交換することによりより良い介護計画の作成ができ、実践できるよう努めている。	家族の意見や要望は、訪問時や電話、事業懇談会等でも聞いている。家族の意見をもとに、申し送り時や利用者の日々の状態を振り返りながら検討し、介護計画を作成している。家族に計画内容を確認してもらい、課題があれば再度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の申し送りを確実にを行うため、日々ケア日誌の記入を丁寧にを行うようにしている。ミーティングにおいても個々の問題を前もって把握してミーティングに臨むことにより中身のあるミーティングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに合ったサービスを提供する為お一人お一人に寄り添い、利用者様の事をより理解することでその時々利用者様のニーズに合った支援に努めている。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の民生委員の方にご参加いただき施設の状況等を共有している。また、第三者として市から介護相談員の方に来所していただき利用者様のお話を聞いていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医による受診をすることで細やかな気づきにつながる。また、継続的に受診することで治療方針等も的確に進めることができる。	かかりつけ医については、契約時に本人・家族に説明している。協力医は定期的な往診があり、必要時には歯科医の往診もある。専門医への受診は家族が同行しているが、緊急時や家族の都合によっては、事業所が柔軟に対応し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の注文や利用者様の現状を主治医と相談して対応している。職員も看護師より説明を受けできる範囲の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院されたときはケアマネジャーや管理者がこまめに病室に顔を出し利用者様が不安にならないようこころがけている。また、早期退院できるよう担当医師と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段生活する中で医療行為が必要な場合は病院へ移動となるが、出来るところまでは対応させていただくようにしている。終末期にはご家族の同意をいただき看取りの対応をさせていただいている。職員間では常に連絡等を取り合い柔軟に対応している。	契約時に、重度化や終末期について事業所の方針を説明し同意を得ている。利用者の状態変化時は、家族、医師を含め関係者が十分に話し合い、対応している。終末期は、家族の意向を受け入れ、職員は学びを重ねながら看取り介護に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時の対応を行う。また、ミーティング時事例集等を用いて緊急時の対応の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回開催し、事故発生時に備え通報、消火、避難誘導等の訓練を行っている。また、消防署職員の方の立会により地震・水害のハザードマップを用いて避難経路等を確認している。	年2回、夜間想定を含めて災害訓練を行い、器具の取り扱い、連絡網の確認等、詳細な訓練を実施している。行政の資料を基に水害・地震についても対策を検討している。備蓄品を完備し、点検等を行っている。地域の協力体制も整っている。	地域の防災訓練にも事業所から参加し、地域と事業所双方で、防災についての意識を高める関係づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の尊厳を大切にプライバシーを守ることや職員間での会話の内容、声のボリューム等も意識するよう日頃よりアナウンスしている。	常に、理念の意義を意識し、利用者の自尊心や誇りを損ねない対応に努めている。言葉遣いや声のトーンに注意し、会話はゆっくりと丁寧な対応を心掛けている。排泄や入浴支援では、プライバシーを守り、細心の心配りをするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のご希望を実行するには職員一人で判断するのではなくケアマネージャーや管理者など複数の意見をディスカッションして決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日午前中にレクリエーション等でパズル、塗り絵、合唱等全員参加型で行っているが、最近では音楽を聴く時間を設け利用者様の気持ちを落ち着かせることによりその人らしい暮らしができるよう環境づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装にご希望があれば対応させていただくが、常に快適に過ごしていただけるよう、季節に合わせた服装や、同じ服装にならないようこころがけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるような献立や、食事提供時の盛り付けや、色あい、食器へのこだわり等までを使い楽しい食事ができるよう心掛けている。また、出来る方には配膳や、食事後のテーブル拭き等を積極的に行っていたいしている。	一人ひとりの状態に合わせて、刻み食やミキサー食等も、盛り付けや食器を工夫しながら提供している。職員は食材を説明し、楽しい雰囲気作りに努め、完食につなげている。準備や後片付け等も、利用者ができることで関わっている。楽しみが増えるよう、行事食にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の個々の状態に合った食事の提供方法(普通、刻み、ミキサー等)を心掛けている。栄養面でも主食に関しては栄養士が考えた配食を導入し、バランスの良い食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはすべての利用者様に支援し、自分で口腔ケアのできる方は見守りや、声掛けをして清潔保持にこころがけている。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行困難な方を除き、各自の力や習慣とあった排泄パターンを習得し、自立に向けた支援をしている。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が習慣になるよう支援に取り組んでいる。歩行が可能な利用者には、トイレに近い居室を提供し、トイレに行くことがリハビリになることを意識付けながら、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が難しい方に対しては体操などを行ったり、乳製品の摂取などによりスムーズな排泄につながるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めて実施しておりますが、清潔面も考慮しながら入浴をお勧めしている。浴室などは使用者様と職員とでお話ししながら楽しく入浴している。	入浴は週3回であるが、利用者の希望で柔軟に対応をしている。入浴支援は、コミュニケーションの場でもあり、椅子式リフトの導入で、利用者は安全に入浴を楽しむことができ、職員の負担も軽減されている。重度者や終末期の利用者も、機械浴の利用で、できる限りの入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日ではないが、就寝前にピアノの演奏を聞いていただき少しでも気持ちが落ち着いた状態で眠れるようピアニストに演奏していただいたり、なかなか眠れない方には優しく声掛けをし、安眠できるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は看護師、服薬支援は職員により行っている。服薬のタイミングで確実に服薬できるよう、飲み終えた袋の確認や、何人かの目で確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が食事、掃除、洗濯など日常生活の中でできる事はしていただけるよう場面の提供を心掛けたり、季節ごとにホールに飾る作品作りも季節を感じながら楽しんで作成していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外への外出は現状厳しい状況ではあるが、外の状況にあわせて積極的にテラスへ出て季節や外の空気を感じていただいている。また、隣接する施設での慰問等がある場合には皆そろってお出かけをし、演奏会や、マジック、お笑いなど楽しんでいただいている。	利用者の健康状態に合わせて、外出支援を行っている。希望があれば職員が買い物同行を行っている。併設の小規模多機能ホームで行われる演奏会や演芸会に参加することで、利用者の生活に明るさが増し、楽しい時間になっている。年間行事では、ドライブを兼ねて出かけている。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の中でお金を持つことは大切なことではあるが、施設外への外出も現状厳しい状況なのでお金を使う場面がない。もしも必要であれば管理者が必要に応じた対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があれば職員の支援のもと対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は皆さまが快適に過ごせるようこまめに片付けをしたり、皆さまで作られた作品や、レクリエーションの際撮影した写真等を飾るなどの配慮をしている。	共用の空間は広く、車椅子の往来も安全にでき、広い廊下はリハビリに利用している。食堂の椅子は、利用者が安全に食事ができるよう、高さ調整ができ、利用者同士がゆったりと寛げるソファも置かれている。利用者と職員が合同で作った作品も掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がお一人になられたときにはリラックスできるような居室や、和室、テラスなど利用者様の求められる場所で過ごしていただいている。ただし、この際もこまめな見守りや、状況に合わせて声掛け等もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との写真や利用者様が作られた作品など、利用者様のご希望であれば居室に置かせていただいている。また、見守りもセンサー等の設置により人の気配を感じる事なく快適に過ごしていただいている。	居室入口には、昔からあるような黒字で表記した木製の表札を掲げるなど、我が家と同じ感覚を大切にしている。使い慣れた小物を持ち込み、家族の写真を飾り、心地よく過ごせる工夫をしている。寝具の交換は利用者も一緒に手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせてなるべく自立した生活ができるよう廊下に設置された手すりを使って居室やトイレまでの移動を積極的にいただいている。また、トイレや洗面所には利用者様がわかりやすいよう大きめの字で看板を設置している。		